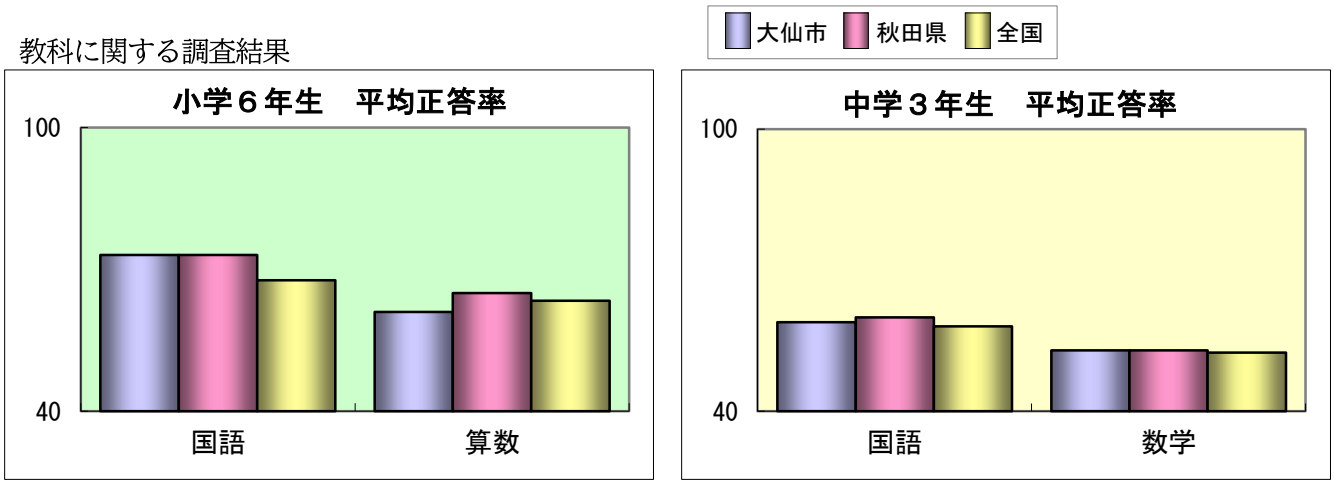
令和６年度全国学力・学習状況調査について

令和６年１１月２７日　大仙市教育委員会

令和６年度　実施状況

１	実施目的	児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
２	実施学年	小学６年生、中学３年生
３	実施教科	国語、算数・数学
４	調査内容	①教科に関する調査（国語、算数・数学） 知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題 ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査 ・児童生徒に対する調査　・学校に対する調査
５	実施方式	悉皆調査
６	実施期日	令和６年４月１８日（木）
７	調査対象	全国（国公私立）小学校　18,850 校　（実施率　99.1%） 秋田県公立小学校　175 校　（実施率 100.0%） 全国（国公私立）中学校　10,228 校　（実施率　93.9%） 秋田県公立中学校　105 校　（実施率 100.0%）

Ⅰ　教科に関する調査結果



○国語では、小学校、中学校ともに全国の平均正答率を上回っている。算数・数学では小学校が全国平均を下回っており、中学校は県と同等で全国の平均正答率をやや上回っている。

〈教科に関する調査について〉

○小学校

・国語…全国の平均正答率と比較すると全ての領域で上回っており、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」が良好である。

・算数…「データの活用」以外の領域で全国平均を下回っている。特に差が見られたのが「変化と関係」である。

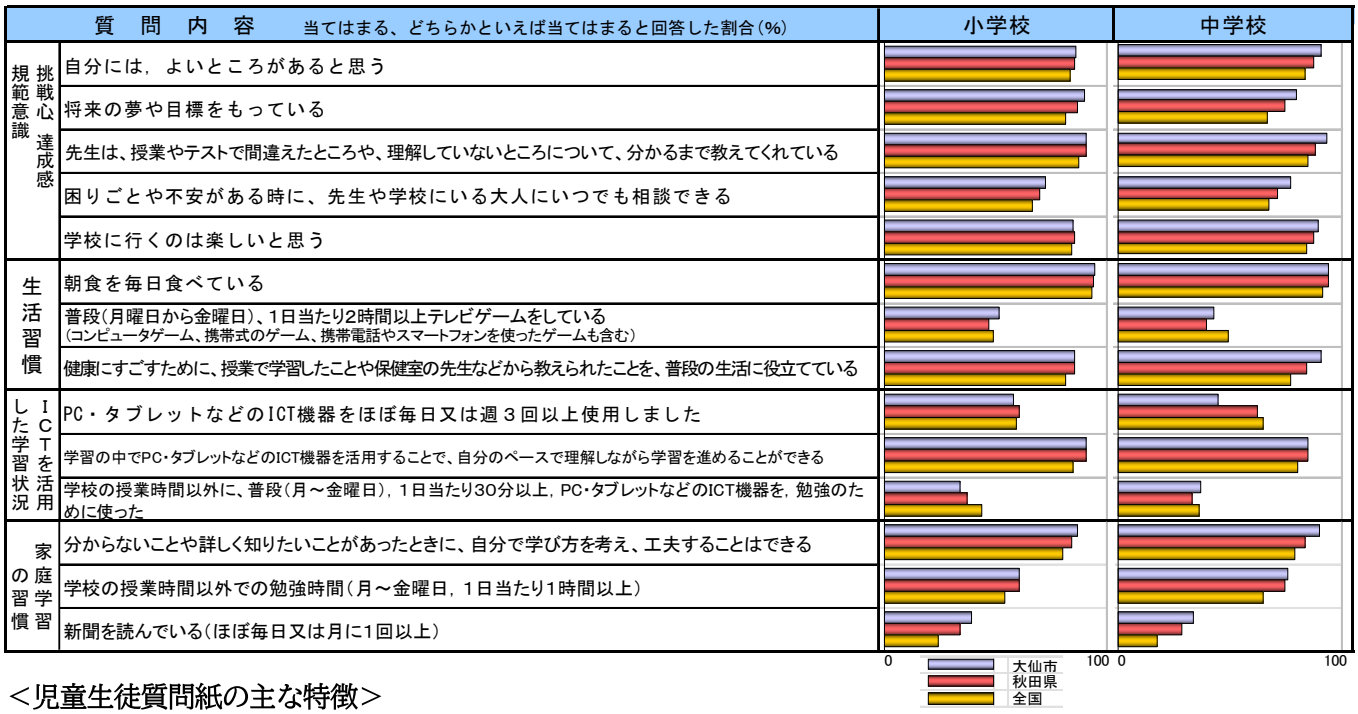
○中学校

・国語…全国の平均正答率と比較して良好な領域は、「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」である。

・数学…ほとんどの領域で県や全国と同等だが、「データの活用」「関数」が上回っており、「図形」は下回っている。

これまでの各小・中学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した課題解決型の授業づくりにより、国語を中心に児童生徒は力を伸ばしている。市教育委員会としては、課題が見られた算数・数学について、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の一層の充実を図りたい。特に苦手と考えられる文字等情報量の多い問題と、図形や表の中から必要な情報を見付け出して解く問題については、ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくりを推進しながら、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指した各校の取組を支援していきたい。また、児童生徒が様々な問題に触れるために、普段の授業の中で必要に応じて全国学テや県の学習状況調査等の傾向をふまえた問題に挑戦させたい。それにより、初めて見る様々な要素が関係する問題に対しても実力を発揮できるようになると考える。

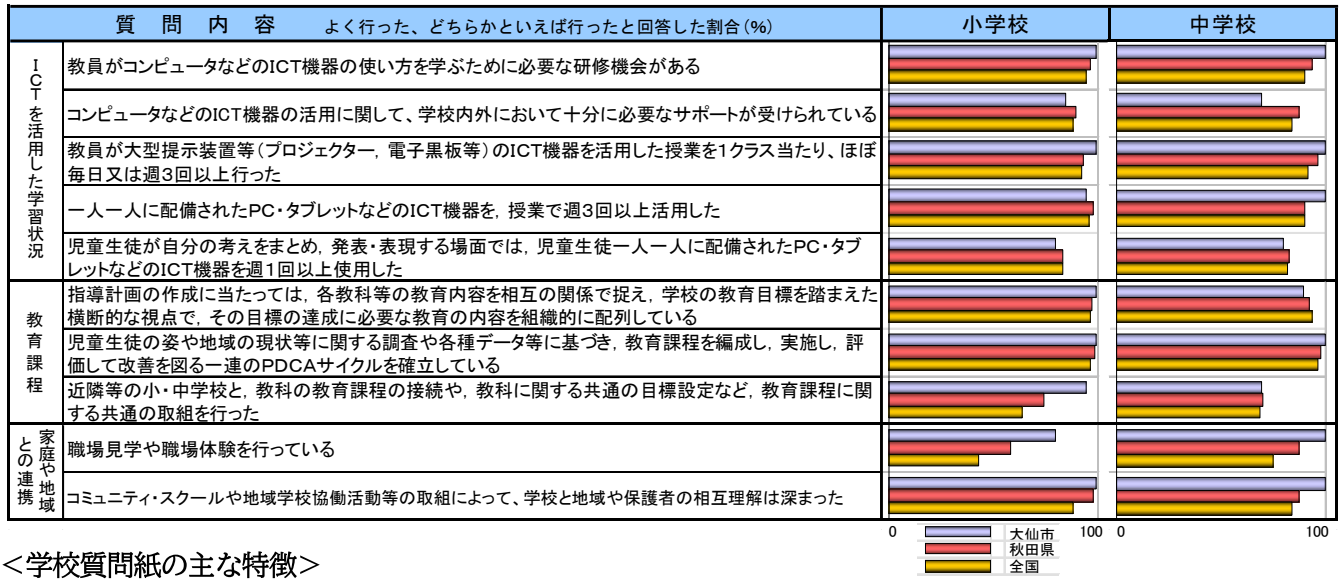
Ⅱ　児童生徒質問紙（主な項目の全国、本県との比較）



＜児童生徒質問紙の主な特徴＞

○挑戦心、達成感、規範意識に係る項目は、引き続き良好な状況にある。お互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標に向かい主体的に学んでいることの成果と捉えられる。
○健康にすごすために，学習したことを生活に役立てている児童生徒が多い。
●自宅で勉強のためにタブレット等を使用している小学生は全国と県を下回っている。
○授業中にＩＣＴを週３回以上使用した割合が県や全国と比較すると低いが、質問が始まったＲ３以降、大仙市では順調に上昇している。
○家庭学習の習慣に係る項目からは、進んで学習している様子がうかがえる。また、新聞を読んでいる児童生徒の割合が県や全国平均を上回っている。

Ⅲ　学校質問紙（主な項目の全国、本県との比較）



＜学校質問紙の主な特徴＞

○ＩＣＴを活用した学習状況に係る項目では、使い方を学ぶために必要な研修機会があると回答した割合が全国や秋田県の平均を上回っている。
●学校内外において十分に必要なサポートが受けられているという項目が県、全国を下回っている。各校への校務支援サポーターの派遣について検討していきたい。
○小学校と中学校の教育課程の接続や共通の目標の設定などは、引き続き良好な状況にある。全国、県と比較して、高い水準で連携が行われていることから、大仙メソッドが効力を発揮していることがうかがえる。
○職場見学、体験を行っている学校が多く、地域・保護者との相互理解も進んでいる。